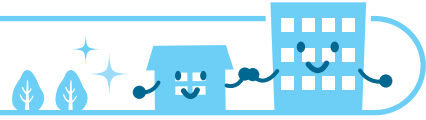


地域の特性



(1) データで見る地域の概要

0～6歳人口比率は区平均よりも低く、65歳以上の人口比率及び単身世帯比率は区平均よりも高くなっています。また、75歳以上の人口比率及び単身世帯比率は8エリア中最も高くなっています。

世帯数は平成15年比で20年は5%増加していますが、町内会加入世帯数は減っています（平成20年は15年より13%減）。

古くから市街化がすすみ、狭く入り組んだ道路沿いに住宅が密集している場所も見られます。地下鉄やバスが通り、利便性が高い地域です。エリア内には地域ケアプラザ、かなーちえサテライトひろば、高齢者及び障害者グループホーム、障害者地域作業所、神奈川スポーツセンター等があります。また、9か所の自治会館は地域活動の拠点となっています。

基礎数値（人口、世帯、高齢化率等）

（平成21年3月末現在）

地区名	人口（人）	世帯数	0～6歳 人口比率（%）	65歳以上 人口比率（%）	75歳以上 人口比率（%）	単身世帯比率（%）	
						65歳以上	75歳以上
三ツ沢	16,077	8,021	4.7	21.2	11.0	12.0	8.0
神奈川区全体	227,164	113,856	5.8	18.8	8.7	10.7	6.2

(2) 行われている主な活動

- ◆ 高齢者の会食会や配食活動、ミニデイサービスなどの取組が行われています。会食会では小学生との交流も行われています。
- ◆ 「すくすく子がめ隊」での子育て支援が行われています。
- ◆ 高校生や小学生と地域住民が協力して、せせらぎ緑道クリーンキャンペーン（ふれあい地域清掃）に取り組んでいます。
- ◆ 小学生が育てた蛍の観察や放流が地域との交流の機会になっています。

(3) 地域の課題

【1】 近隣とのふれあい・災害時の支えあい

古くからの住宅地がある一方で、マンションや新興住宅地へは転入者もみられています。乳幼児から高齢者まで、身近な地域で安心・快適な生活がおくれるように、交流が深まる取組が必要です。

また、古くからの住宅地では、狭い道幅の坂道や階段がみられ、災害時の避難など防災上の問題があります。個人情報保護や、人間関係の希薄化により、災害時要援護者の把握が難しくなっています。日ごろから声をかけあう関係づくりを行うとともに、災害時に助け合えるしくみづくりが課題となっています。

【2】 担い手の確保

町内会を中心とした支えあいの活動が活発に行われています。高齢者比率、単身世帯比率が高く、地域での見守りや支えあいの活動の充実のために、担い手の確保が必要となっています。

地区の「重点課題」と「取組」

三ツ沢地区

重点課題①：近隣との交流 (程よい関係の中で生まれるふれあいを大切にする取組)

すぐに
取り組む
こと

〔個人の取組〕

- 自らあいさつし、顔見知りを増やします。道路やゴミ集積場の清掃時に交流します。
- 高齢者宅の水まきの手伝いやゴミ出しなど、簡単な手助けを申し出ます。
- おまつりや子ども会、敬老会、老人会活動などの地域行事に参加して顔を覚えてもらいます。

〔自治会町内会、老人会、学校〕

- 回覧板や、小学校便りを回す時には、なるべくあいさつしながら手渡しで行います。
- あいさつ運動を学校でも地域でも広げていきます。また、ひとり暮らし高齢者の方々と小学生の交流を継続します。

〔民生委員児童委員・ボランティア団体〕

- 訪問先の「ひとり暮らし」「高齢者」「子育て支援を必要とする親」の方へ、祭礼や納涼祭へお誘いをします。

時間を
かけて
取り組む
こと

〔自治会町内会〕

- 子どもと高齢者が一緒に楽しめる企画をします。(「花火観賞の夕べ」「盆踊り」「納涼祭」「庭園鑑賞会」「餅つき」など)
- イベントを通して老若の自治会員が交流する機会を増やします。
- 自治会町内会から補助を行い、各世代が活発に活動できるようにします。
- 自治会町内会のメリットや活動・役割を具体的に伝えます。住民それぞれがどんな地域にしたいと思っているか、またそのために一人ひとりができることを具体的に考える機会を設けます。

〔民生委員児童委員・ボランティア団体〕

- 要援護者とのふれあいを目的に、訪問を活発に行います。必要に応じて会食サービスや配食サービスの利用を勧めます。

重点課題②：自治会町内会活動の担い手の確保

すぐに
取り組む
こと

〔個人の取組〕

- 自治会町内会の活動に率先して参加します。

〔自治会町内会〕

- 役員は近隣の方を地域や自治会町内会の行事に誘います。
- 町内の班長会合や子ども会会合の時などに役員が活動内容を伝え、地域活動への協力を呼びかけます。

時間を
かけて
取り組む
こと

〔自治会町内会〕

- いろいろな世代が楽しめる機会を定期的に設け参加者の交流を図ります。掲示板を活用し周知します。(おまつり、盆踊り、スポーツやカラオケ、ゲーム、料理教室、など)
- 公園清掃やパトロールを利用して、若い世代がいろいろな活動に参加できるよう工夫します。
- 自治会町内会の活動内容を掲載したチラシをつくり、小・中学生、高校生、大学生なども活動に参加できるようPRします。
- 30代、40代の方が無理なく楽しく自治会町内会活動を行える場を設定します。働いている人が多いため、開催時間を柔軟に設定します。若い人に参加してもらい、従来の活動にとらわれない「やってよかった、継続可能…」と思えるような内容を、数多く一緒に計画します。

重点課題③：災害時の対策

すぐに
取り組む
こと

〔個人の取組〕

- 災害時に必要なもの（食料、水、衣服、靴など）を身近に確保します。

〔自治会町内会〕

- 町内の活動に参加するなどして、日ごろから関係づくりを行います。誰がどこにいるか、顔と名前がわかるように近隣の方々の状況を知っておきます。また災害時の名簿をつくるなどして、連絡先を把握しておきます。
- 災害時要援護者の名簿を行政と協働で作成します。
- 災害時に備え最低限の水・非常食の確保、テント、簡易トイレなどを準備します。
- 年数回、地域で災害時に備え、情報共有を目的として話し合いや学習会、訓練を行います。一般の人が参加できるよう工夫し、役員以外も災害に関する情報が行き渡るようにします。
- 防災拠点の訓練等に参加し、地域ができることについて考えます。
- 伝言ダイアルの周知、あんしん電話、安否確認を知らせる情報ツールの活用について、理解を深める取組をします。

〔民生委員児童委員〕

- 災害時対応のために、支援が必要な方がどこにいるのかわかるように色分けしたマップを作成します。必要に応じて情報の更新を行います。その際、自治会町内会、老人会から情報収集を行い、民生委員児童委員が話し合う機会を設けます。

時間を
かけて
取り組む
こと

〔自治会町内会〕

- 行政と連携して、地震、火災、暴風雨等の災害に対して、高齢者、障害者への対応や各地域の起こりやすい災害を知り、理解を深めて情報の共有化を図ります。
- 地域消防団についての広報を広く行い、災害に備えて増員を図ります。（町内の役員や商店経営関係者、役所関係、地域ケアプラザ、学校関係者、交通機関などへ広報）



地域別懇談会の様子

重点課題に対する区役所の取組

重点課題：「近隣との交流（程よい関係の中で生まれるふれあいを大切にする取組）」

【こんにちは赤ちゃん訪問事業・すくすくかめっ子事業】

地域の子育て支援の機会を通して地域住民が交流する機会をつくります。

【ふれあい訪問事業】

地域でのひとり暮らし高齢者等の見守りに、必要な情報提供や研修を行います。



重点課題：「自治会町内会活動の担い手の確保」

【自治会町内会活動支援講座】

自治会町内会向けに広報PR資料の作成研修などの支援を行います。

【ボランティア活動のきっかけづくり・情報の提供】

ボランティアを希望する人と必要とする団体等がつながるよう、講座や情報提供、関係機関との連携を行います。



重点課題：「災害時の対策」

【危機管理対策事業】

災害に備えるための情報提供や、防災マップの配布などにより、地域の防災力向上を進めます。

【災害時要援護者対策支援事業】

地域と協働し、地域における災害時要援護者の支援体制づくりを行います。



地域を支援するための沢渡三ツ沢地域ケアプラザの取組

- 毎月「ひだまりサロン」を開催し、高齢者の交流・仲間づくりを行います。地域ケアプラザ以外の場所でも定期的な開催を検討します。
- 「かなーちえ」や食育講座など、子育て中の親同士が交流できる場を提供します。
- 地域の食事会へ出向き、健康チェックや地域ケアプラザの講座の案内など、様々な情報提供を行います。
- 団塊の世代が地域活動に参加できるきっかけとなるような、場の提供を行います。
- 広報誌やホームページを利用し、広く情報を発信します。
- 地域ケアプラザでボランティアをしている方の交流会を開催し、活動の輪を広げます。
- 支えあいネットワークの事務局として、地域のネットワークづくりを支援します。